

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	観光学入門 (Introduction to Tourism)		授業コード	E046701
担当教員名	本村 裕之		科目ナンバリングコード	E21407
配当学年	2	開講期	前期(集中講義)	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特になし			
受講心得	今期は集中講義にて行うため、1度の遅刻・欠席により知識の習得に重大な知識の脱漏が生じる可能性が高い。十分に注意すること。座学の形式をとるが、普段からの新聞報道や政府広報などへの強い関心を望む。			
教科書	なし。			
参考文献及び指定図書	必要な場合は講義中に指示する。			
関連科目	サービスラーニングI・II、マーケティングリサーチ、社会調査法、地域イノベーション論、地域ブラン			

授業の目的	<p>わが国では、社会の熟成に伴う経済構造の再編成が急務となっている。その一翼を担うのが「観光」である。</p> <p>2008年国土交通省内で、大臣官房総合観光政策審議官および総合政策局観光政策課・国際観光課・観光経済課・観光資源課・観光事業課・観光地域振興課を廃止し観光庁を設置、国土交通省設置法第四十二条-四十四条内で「観光立国の実現に向けて、魅力ある観光地の形成、国際観光の振興その他の観光に関する事務を行うことを任務とする」事を謳っている。</p> <p>国内・国際観光を問わず、観光環境の整備及び人材育成の必要性は関係者の全てが認識するところではあるが、関係者外の危機感は薄く、広く国民への教育が望まれている。</p> <p>本講義では、「観光とは何か」を深く考え、自らの周辺にある現象としての観光や、観光政策に理解を深め、国や地方自治体、観光事業者・団体に対し、客観的な政策提言を行い得る人材の育成の基礎とすることを目的とする。</p>
授業の概要	モノ消費からコト消費へのパラダイムシフトが起きようとしている現代、これまでにない柔軟な発想を持った観光人材の育成を目指す。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<p>第1週：DAY1 観光学入門概観</p> <p>観光庁発行の「旅行・観光消費動向調査」をみながら、我が国の観光を取り巻く状況と、国家戦略について考える。</p>	
<p>第2週：学問としての観光学</p> <p>未だ「観光学」の学問としての認知度は低い。「観光」は、果して学問足りうるのか。学問であるとするなら、どのような社会貢献が可能なのか。その意義や醍醐味について考える。</p>	
<p>第3週：お伊勢参りから竜馬の新婚旅行、インバウンドツーリズムまで</p> <p>日本における観光の歴史はほど古くない。江戸時代以前の戦国時代、一般人の移動は国の戦力の低下と同値であった。国境(関所)を越えての移動が容易になったのは江戸時代に入ってから。それも、参勤交代に併せた宿場町の整備が整ってからである。それまでの越境は、命がけの冒険と同義であった。</p> <p>平安時代の熊野詣からお伊勢参り、近年の観光に至るまでの観光の変遷を学ぶ。</p>	
<p>第4週：日本・世界の観光戦略</p> <p>2004年よりわが国では「ビジット・ジャパン・キャンペーンYOKOSO!JAPAN」を展開中である。隣国韓国では「Visit Korea Imagine your Korea」キャンペーンを、中国では「BEAUTIFUL CHINA」キャンペーンを展開し外国人観光客の誘致に乗り出している。各国の戦略とその意図、意義について考える。</p>	

第5週：観光庁の取り組み「日本版DMO」／課題		
<p>「学」としての観光を考えると、持続可能な観光マネジメントを行う組織として、日本版DMO(Destination Marketing/Management Organization)の整備が急務と言われている。日本版DMOとは何か。何ができ、そこで働く人材に何が求められるのかを考える。</p>		1日を振り返り、与えられた課題をに対し解答する。
第6週：DAY2「生業」としての観光と経営		
<p>既存の観光産業事業について、その特徴と方向性について、事業の成り立ちを踏まえて考察する。また、事業としての収支構造、サービス業としての企業理念などについての理解を深める。</p>		
第7週：観光資源：「観光」を取り巻く環境		
<p>6で取り上げた事業体を含め、地方自治体などが抱える現状と課題について考える。また、近年取り上げられることの多くなった世界遺産の観光資源としての価値を考え、その運用や活用法について考える。</p>		
第8週：「若者、バカ者、よそ者」考		
<p>まちづくりに必要と言われている3者について、観光の側面から考えてみる。</p>		
第9週：観光のトレンド：Airbnb、LCC、イールドマネジメント		
<p>国内観光経済において需給バランスのズレが問題視されてきている。その解決の糸口として脚光を浴びつつあるキーワードについて考えてみる。</p>		
第10週：観光とSNS／課題		
<p>9も踏まえて、現在の観光客誘致においてSNS(Social Networking Service)の存在を無視することは出来ない。観光とSNSの関わりや、その位置づけ、活用例について見ていく。</p>		1日を振り返り、与えられた課題をに対し解答する。
第11週：地域イノベーション考		
<p>関係省庁は、2011年より地域が地域として自立していくために、地域の潜在能力を結集してイノベーション(新機軸・技術革新)を創出し、新事業・新産業を起すための支援を始めた。そのリーダーと期待されるのが、地域イノベータである。観光と地域イノベーションについて考える。</p>		
第12週：九州観光・大分観光		
<p>身近な大分や九州、それ以外を含めた自分に関係のある、関心の持てる土地土地での観光の現状をサーベイし、これからの観光のあり方を考えてみる。</p>		
第13週：外部講師講義I		
<p>ゲストスピーカーを招き、地方の観光の実態を現場目線でレクチャーしていただく。</p>		
第14週：外部講師講義II		
<p>ゲストスピーカーを招き、地方の観光の実態を現場目線でレクチャーしていただく。</p>		
第15週：外部講師講義III／まとめ		
<p>ゲストスピーカーを招き、地方の観光の実態を現場目線でレクチャーしていただく。最後にまとめとして、観光について考える。</p>		
第16週：		
<p>期末試験は実施しない</p>		3日間を通じ観光学について考え、与えられた課題について解答し提出する。
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標		
【関心・意欲・態度】	身近な事業や政策としての「観光」を改めて見直し、学生時代、社会人生活を問わず社会貢献を行っていくための、「気づき」や「思い」を励起する。	

【知識・理解】	初めて聞くことが多いであろう専門用語・専門知識に対し、身近な問題だと捉えなおして、より深い理解を行う。
【技能・表現・コミュニケーション】	「無知」は恥ずべきものではない。「無関心」こそ恥ずべきものである。積極的に発言し、講義に参加することで知識の深化は図られる。
【思考・判断・創造】	社会問題を、身近な問題に置き換え、認識し、問題の抽出と解決の糸口を探す。その姿勢を大事にする。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		25点	5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		25点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点	5点	
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	客観性、またはオリジナリティを高く評価する。
発表・その他(無形成果)	発言全てを可とするものではないが、積極的な発言は評価が高い。